

小平市議会定例会一般質問通告書

再質問の方式 一問一答方式

質問件名 ドメスティック・バイオレンス防止対策と被害者の支援について

【質問要旨】

日本では家族間の問題に公は介入しないということで、ドメスティックバイオレンス（配偶者や恋人など親密な関係にある、又はあった者から振るわれる暴力）（以下 DV という）の問題はなかなか見えてきませんでした。2001 年に「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」（以下 DV 防止法という）が制定され支援策が講じられるようになってきました。しかし 2019 年 9 月に内閣府男女共同参画局が発表した「配偶者からの暴力に関するデータ」によると、DV の相談件数は 2001 年以降おおむね増加し続けています。昨今では野田市や目黒区の事件のように児童虐待の背後に DV があると思われる同様の事件がいくつも報道されています。虐待に詳しい弁護士は「実際の DV 加害者は大声を出したり暴れたりせず、冷静かつ理論的に相手の弱みに付け込むタイプが多い。DV の本質は精神の支配とコントロール」と述べています。DV の渦中にいる当事者は自分が被害者であるとは思わず、自分に非があると思ってしまう。渦中にいる子どもは虐待にあわなかったとしても両親の夫婦げんかあるいは DV を目の当たりにし心に大きな傷を負ってしまいます。

DV 被害者の支援のためには、相談体制の整備だけではなく関係機関が連携をし、被害者の早期発見、一時保護、そして生活再建まで切れ目のない支援をしていくことが必要です。

また、夫婦間だけではなく恋人間における交際相手への暴力はデート DV と呼ばれ、若年層においても被害者、加害者を生まないための予防啓発も進めていく必要があります。

お互いの人権を尊重し、あらゆる暴力から守られ、安心して生活していくために以下質問をします。

- ① DV 防止法第 9 条（被害者の保護のための関係機関の連携協力）のための会議体がありますか。
- ② DV 被害者への支援には相談対応や支援の担当部署だけではなく各窓口での適切な支援など全庁的な連携体制が必要と考えますが市の見解を伺います。
- ③ DV と子ども虐待の関係を理解するために子どもと接する機会がある関係者（子ども家庭支援センター相談員、乳児訪問の保健師など）に対し DV に関する研修を行なっていますか。
- ④ 女性相談室相談員の DV についての研修体制は。
- ⑤ 被害者が繰り返し被害について話すことは大きな負担です。一度の説明で様々な支援が受けられるような工夫はしていますか。
- ⑥ デート DV 予防のために今後計画している予防啓発策はなんですか。

上記のとおり、小平市議会会議規則第 57 条第 2 項により通告します。

2020 年 2 月 13 日 小平市議会議長 殿 小平市議会議員 氏名 山崎 とも子

受付番号【 】

27	26	25	24

— (/)